五位組だより
２０２２年
（令和４年）
５月２０日
念仏のこころに生きる生活を
浄土真宗本願寺派
高岡教区　五位組
題字・織田隆夫

同じ大地に生きる

石堤　長光寺　住職　織田隆夫

２０１１(平成23)年３月11日、東日本大震災(死者・行方不明者１万８４２５人、避難者３万５１１０人)から11年。大地震と大津波が人々の生命と生活を奪い去った。その自然災害の現実は、日本国内はもとより世界中を震撼させた。重ねて、３基の原子力発電施設のメルトダウン(福島第一原発事故)。国は、人災事故を想定外事故として未だ処理できないまま、多くの人々に不安と恐怖の人生を強いている。

震災より８年、２０１９(令和元)年11月頃よりコロナウイルス感染症の蔓延が始まった。世界の死者約６２２万人、日本の死者約２万９７００人、またしても世界中が恐怖と不安に包まれ、偏見・差別・排除が横行し、マスコミは毎日感染者数と死者数を報道する。しかし、感染病は人種・性別・年齢・宗教・国境をもたない。人間が作り上げてきたヒエラルキーを無視して地球上に拡散する。統一しているのは人間の死だけであろう。

２０２２(令和４)年2月24日、ロシア軍によるウクライナ侵略戦争勃発。両国の死者は１万人を超え、避難民７１４万人、富山県の人口が１０２万人弱、想像を絶する数字である。東日本大震災当時は、過度なお笑い番組は民放も自粛していたが、今は、バラエティー番組を見て大笑いしている私たち。なぜ、お笑い芸人・歌手・芸能人・そして私たちは言葉を発しないのか。解らないから？みんな意見が違うから？遠い国の話だから？マスコミ報道は戦況解説ばかり、人道的・政治的・経済的・軍事的・科学的・哲学的・歴史的解釈はされるが、非戦平和を論理的に力強く発信されることは少なく、誰一人として人類が作り上げてきた国境や目に見えない欲望のシステム・ヒエラルキーの本質を解き明かそうとはしない。自然災害・感染病は人知だけで止めることは不可能かもしれないが、放射能災害・戦争は人間がおこすヒューマンエラーである。

そのような社会情勢の中、２０２２(令和４)年３月28日浄土真宗高岡教区教区会において次の決議文が採決された。

ウクライナの平和を願い、即時の停戦と紛争の平和的解決を求める決議

ロシア軍がウクライナに侵攻し、多くの命が奪われています。いかなる理由があれ、他国の主権を武力で侵害することは絶対に許されません。

「すべての生き物にとって生命は愛おしい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ。」と釈尊は示されました。

私たちは仏教徒として、念仏者として、すべての非人道的な行為に対して抗議をするとともに、即時の停戦と紛争の平和的解決を強く求めます。

２０２２(令和４)年３月28日
浄土真宗本願寺派高岡教区教区会

次ページへ続く

前ページから続く

※決議文中の釈尊のお言葉は、現存する最古の経典『ダンマパダ(法句経)』の一説です。戦争の否定と平和への希求はまさに仏教の原点であります。釈尊は「殺してはならぬ」「殺さしめてはならぬ」とお示しになりました。私たちは、自分だけではなく、他者の行為をも止めるよう、呼びかけられているのです。

以上が決議文内容である。誰もがこの戦争問題の深さに戸惑い、声を上げることに躊躇している中、願いや不安恐怖を言葉にし、行動に変える勇気と励ましの一助になればとの決議であろう。

仏教には僧伽(サンガ)という言葉がある。僧伽(サンガ)とは出家修行者の集団を表し、集まった一人ひとりが自覚と尊厳をもち共に生きる共同体を表すものである。「いやなことはいやだ」「おかしいことはおかしい」と、自分の言葉で表し、先ずは声をあげ、行動に移し自分のできることをする、そんな人たちの集まりが僧伽(サンガ)であろうと理解している。釈尊は「殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ」と示された。ではなぜ殺してはいけないのか、殺さしめてはならないのかを、皆で学び確認し行動にしていくのである。

高岡教区教区会決議文を受け、同日に「ウクライナ人道支援の会」が有志により立ち上げられた。今後は、募金活動を通してウクライナ難民及び戦争被害者の人的支援・広報・学習活動を行っていく。五位組の門信徒の願いを力に変える活動となりえると期待し、深い理解と協力をお願いしたい。

合　掌

お問い合わせ

浄土真宗本願寺派
西本願寺高岡会館内
「ウクライナ
人道支援有志の会」

TEL　0766-22-0887

住　職　イ　ン　タ　ビ　ュ　ー

辻　西福寺　豊原正靖　さん

①最近ハマっていることは？

小学四年生の息子の友達と一緒に本気鬼ごっこをするのが楽しいですね。息子の友達とも仲良くなれるので一石二鳥です。

②お坊さんになってからの失敗談

月参りの時お経の本を忘れたのですが、もう覚えているし、このお宅は誰も後ろでお参りしないからと取りに帰りませんでした。

ところがその日に限って後ろにおばさんが座るんですよ。

何か悪い予感がする。一抹の不安を感じながらも始めると、はい案の定詰まった！

流れる汗。脳みそにまで響く心臓の音。

「思い出せ！思い出せ～！」

そうだ。咳をしてその間に思い出そう。

「ゴホンゴホン。ゴーホン！ウェッホ、ウェッホ！ヴェーッ！」

だ、ダメだ。出てこない。

心配そうなおばさん。

「す、すみません。咳止めシロップ飲んできます！」

そう言って私は急いでお経の本を取りに行きました。戻ってきてお経の本を見ながら一度も咳をせずにお参りを終えました。

③新米僧侶の頃の自分に一言

お経の本を忘れたのなら素直に取りに行きましょう。

④これからやっていきたいことは？

お寺で喫茶店をやりたいとは思いますね。たくさん頂いたお菓子やお餅などがお寺にはありますので、それに少し手を加えて飲み物のサービスとして提供したいです。

お講の年間日程

平等講
一座　十四時～

初御講　一月二十五日　中止
報恩講　三月二十五日　中止
本山講　五月二十五日　中止
降誕会　六月二十一日　西福寺
本山講　八月二十五日　広済寺
助成会・追悼会
十一月二十五日　教願寺

二十五日講
一座　九時半又は十三時半～

初御講　三月二十五日　浄永寺
降誕会　四月二十一日　光明寺
助成会　六月二十五日　西光寺
報恩講　十月二十五日　珉照寺

両講合同夏期講座
七月三十日
時間　未定
場所　未定
懇親会　なし
講師　未定
主催　平等講・二十五日講

祠堂経法座ご案内

各寺院の祠堂経法座の日程をお知らせします。　**※日程は変更になる場合があります。**

佐加野　光明寺
三月十七日　朝　九時三十分
三月十八日　朝　九時三十分
三月十九日　朝　九時三十分
法話　高岡市伏木　**山名　一徳　師他**

本保　本正寺
五月二十二日　昼　二時
法話　砺波市　**秋知　仁史　師**

笹川　広済寺
六月三日　朝　九時三十分
六月四日　朝　九時三十分
法話　高岡市内島　**岡西　法英　師**

内島　教願寺
六月九日　昼　二時
六月十日　昼　二時
法話　富山市水橋　**石川　了英　師**

麻生谷　西光寺
六月十日　朝　九時三十分
六月十一日　朝　九時三十分
法話　氷見布施　**圓山　望　師**

上向田　浄永寺
六月二十五日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市戸出六十歩　**林　要昭　師**

詳細は各寺院にお問い合わせください

石堤　長光寺
七月一日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
七月二日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　未定

赤丸　性宗寺
七月三日　昼　一時三十分
法話　福岡町大野　**新原　忠男　師**

三日市　光源寺
七月九日　昼　一時三十分
七月十日　昼　一時三十分
法話　高岡市戸出六十歩　**林　要昭　師**

山岸　珉照寺
八月二十三日　昼　二時三十分
八月二十四日　朝　十時
法話　小矢部市興法寺　**立川　証　師**

石堤　法善寺
秋の報恩講の際にお勤めします。

四日市　浄明寺
秋の報恩講の際にお勤めします。

辻
未定　**西福寺**
とさせていただきます。

立野
未定　**永念寺**
とさせていただきます。

舞谷
未定　**永賢寺**
とさせていただきます。

黎　明　講　座　ご　案　内

各寺院の黎明講座の日程をお知らせします。

山岸　珉照寺
七月二十八日　朝　五時三十分
七月二十九日　朝　五時三十分
七月三十日　朝　五時三十分

笹川　広済寺
七月三十一日　朝　五時三十分
八月一日　朝　五時三十分

石堤　長光寺
八月一日　朝　五時三十分
八月二日　朝　五時三十分

内島　教願寺
八月十三日　朝　六時
八月十四日　朝　六時
八月十五日　朝　六時

五　位　組　　行　事　予　定

歴史講座

日程　六月二十六日（日）午後二時
場所　笹川　広済寺
講題　『一向一揆と勝興寺の歴史』
講師　郷土歴史家　樽谷　雅好　先生
※どなたも無料で参加できます。

五位組　夏休み子ども大会

コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、**中止**と致します。
変更がある場合は、改めてご案内いたします。

蓮門会

テーマ「蓮如上人のことば」
講師　岡西　法英　師

研修会日程（曜日）・時間・場所

四月三日（日）十五時　西光寺
五月一日（日）十六時　浄明寺
六月五日（日）十六時　性宗寺
七月三日（日）十七時　光明寺
十月二日（日）十六時　廣済寺
二〇二三年（令和五年）
二月五日（日）十五時　教願寺

※一回あたり千円での受講もできます。

編　集　後　記

コロナが発生して早くも約二年の月日が経過しているのに、未だに収まる気配がありません。何をするにも都合が悪くて困ったこともありました。

コロナ以降「五位組だより」の編集会議においてもウェブ会議を経験してきました。皆の顔と声は届いてくるのに、自分の声だけが届かないという悔しいこともありましたが、会の仲間に教えてもらいながら挑戦したことは、七〇代の私にとって微笑ましくも充実感のある良い経験になりました。

我々編集する者としてこれからも色々工夫しながら楽しく編集に努めていきたいと思います。

合　掌

五位組だより　第24号　2022年（令和4年）5月20日発行
発行　五位組　／　編集・制作　五位組門徒推進員協議会